

# 大きな魚に 育ててね!

動画  
de 広報

本川根小学校の児童が  
アマゴの稚魚を放流しました



本川根小学校の児童51人は、同小前の大井川にてアマゴの稚魚の放流を行いました。

この放流会は、自然環境を大切にする気持ちを育むとともに、川で安全に楽しく遊ぶための注意事項を学んでもらおうと、新大井川漁協本川根支部が主催しました。

放流したアマゴの稚魚は、梶山雅史さん(寺馬区)が育てた約600匹で、体長5～7センチほど。児童らは漁協会員から容器に分けてもらおうと、時折勢いよく跳ね上がる稚魚に注意しながら、ていねいに放流しました。



## ラグビーを続けられる喜び

ラグビーを始めたのは、中学生の時。それから、大学卒業までの10年間、ラグビーに打ち込んできました。

大学卒業後は、静岡市の不動産会社に就職しました。当時は夜勤もあり、不規則な生活の中でラグビーを続ける余裕がありませんでした。しかし3年ほど前、母校での練習に久しぶりに参加したとき、静岡クラブに所属していた先輩に声を掛けられ、「またラグビーをやりたい」という思いから入団を決めました。

静岡クラブは、現在約30人のメンバーで活動しています。おもに県内中部に住んでいる社会人が、週2回の静岡市内での練習に取り組んでいます。選手それぞれが仕事を持ち、チームとしても練習場の確保に苦労するなど、決して恵まれた環境ではありません。それでも選手はみんな、大好きなラグビーを続けられることに喜びを感じ、感謝しながら練習に励んでいます。

自分はチームの中では年長者であることから、昨年から主将を任されています。自分自身、チームを引っ張っていく性格ではないと自覚していますが、その代わりにひたむきなプレーで貢献していくことを大切にしています。

選手権の決勝戦は、自分が入団してから3年連続で「磐田クラブ」との対戦になりました。過去2年間の対戦では磐田クラブに負けていたのですが、「三度目の正直」で勝つことができ、本当にうれしかったです。この大会で優勝したことで、9月に岡山県で開催される関西大会への出場権を得ました。ここから先は、自分を含め多くの選手にとって未知の場となりますが、より強い相手に挑戦できることが楽しみです。

## Special Interview

# ラグビー、林業、挑戦。

5月14日、静岡県ラグビー選手権の決勝戦が開催され「静岡クラブ」（静岡市）が3年ぶり12度目の優勝を飾った。創立88年の歴史あるチームで主将を務めるのは林業家の山下明宣さん（小長井区＝32歳）。家業である林業に取り組むかたわら「ラガーマン」としても活躍する山下さんにラグビーや山に対する思いを聞いた。



ラグビーを続けていく上でもプラスになると思いますが、自分に合っている職業だなと感じています。それに、林業は基本的に日が沈むまでの仕事ですから、夜のチーム練習にも集中して参加できます。一方で、林業界の高齢化と担い手不足を肌で感じています。そしてその分、若手である自分に対する周囲からの期待も大きいと思います。そうした思いを受け止めながら、まずは自分の技術を磨いていくことを目標として日々の仕事に取り組んでいこうと考えています。また、一緒に林業に携わる仲間が少しでも増えるように、自分の仕事の様子についても発信していけたらと思います。

ラグビーでは年長者であり主将という立場ですが、林業の世界ではまだまだ経験の浅い若者です。立場は違いますが、どちらも自分にとってのかけがえない場所です。それぞれの環境での経験が、きっと自分を成長させてくれると信じています。

8年前に川根本町に戻り、今は弟と一緒に先祖代々受け継いできた山を守るべく、木材の間伐や搬出に汗を流す毎日です。

### 林業は自分に合っている仕事

また、来年には、いよいよ日本でラグビーワールドカップが開催されます。県内でも試合が行われる予定ですので、これを機会にラグビー熱が高まると良いですね。



チームでは年長者、山では若者。  
立場の違う環境が、自分を成長させてくれると信じています。